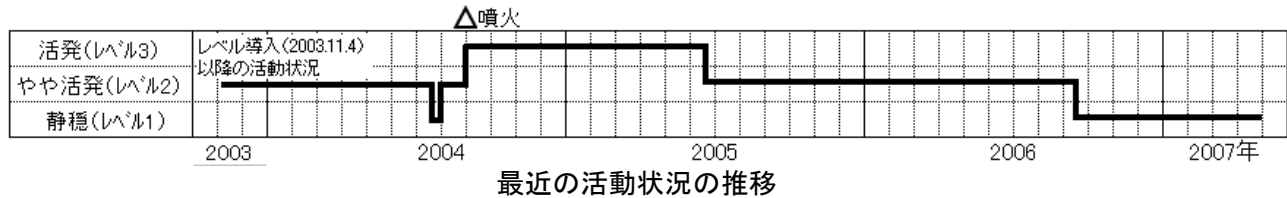


浅間山

○ 火山活動評価：静穏な状況（レベル 1）

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しています。

現在の火山活動度レベルは 1 です。2006 年 9 月 22 日以降、レベル 1 が継続しています。



○ 概況

・ 噴煙など表面現象の状況（図 1、図 2、図 3－②③④、表 1）

山頂火口からの噴煙活動は引き続きやや活発で、噴煙高度は火口縁上概ね 100～200m で推移しました。

20 日と 26 日に実施した二酸化硫黄の放出量の観測では、山頂火口からの放出量は一日あたり 50～200 t と昨年 8 月以降やや少ない状態が続いています。

・ 地震や微動の発生状況（図 3－⑤⑥⑦⑧、図 4、図 6、表 1）

火山性地震の発生回数は一日あたり 7～23 回とやや少ない状態で経過しました。発生した地震の多くが周期の長い特徴を持つ BL 型地震（波形例は図 6 参照）で、震源は求まっていませんが、山頂火口直下のごく浅い所に発生していたと推定されます。このほか、周期の短い特徴を持つ BH 型地震（波形例は図 6 参照）が発生しており、求まった震源はこれまでと同様に山頂直下の深さ約 1～2 km に分布しました。また、A 型地震（波形例は図 6 参照）は山頂のやや西側の深さ約 4km 付近に 1 回発生しました。

火山性微動は 11 日、12 日及び 13 日にそれぞれ 1 回観測されました。

・ 地殻変動の状況（図 3－⑨⑩）

山体周辺の GPS 連続観測では、特段の変化はありませんでした。このほか、傾斜観測¹⁾ や光波測距観測²⁾ でも、火山活動の高まりを示すような変化はありませんでした。

1) 火山活動による山体の傾きを精密に観測する機器。火山体直下へのマグマの注入等により、山体が膨張・収縮した場合に変化が観測されることがあります。

2) レーザなどを用いて山体に設置した反射鏡までの距離を測定する機器。山体の膨張や収縮による距離の変化を観測しています。

※この資料は気象庁のほか、国土交通省利根川水系砂防事務所、陸上自衛隊第 12 旅団、東京大学及び独立行政法人産業技術総合研究所のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50m メッシュ（標高）』を使用しています（承認番号：平 17 総使、第 503 号）。



図 1 浅間山 山頂部の噴煙の状況（4 月 10 日、鬼押し遠望カメラによる）



図 2※ 浅間山 山頂部の状況（4 月 20 日、西上空から撮影）

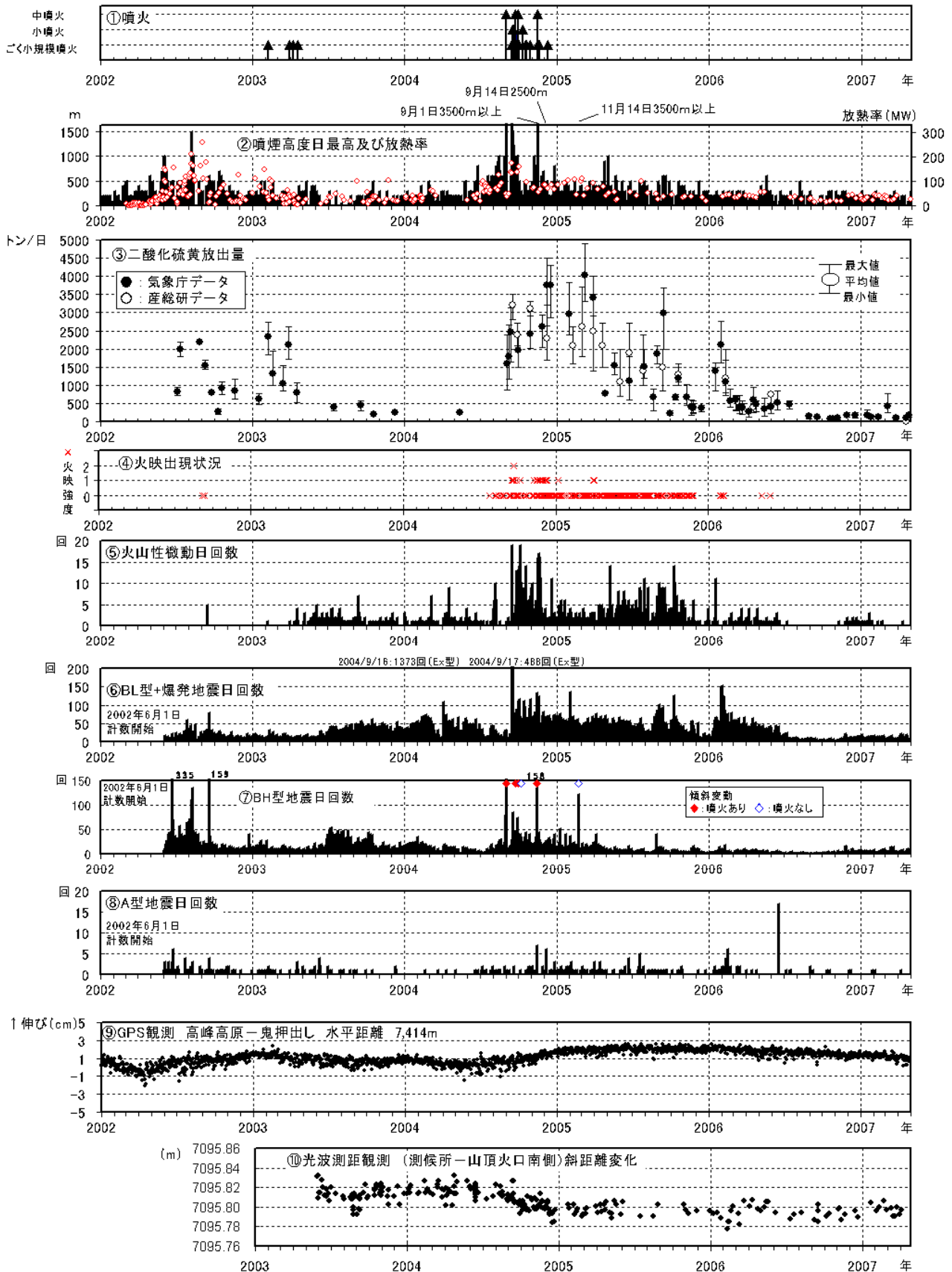


図 3※ 浅間山 最近の火山活動の推移（2002 年 1 月～2007 年 4 月）

③ 産業技術総合研究所による観測データ（産総研データ）が含まれています

⑥⑦⑧ 地震の種類別（図 6 参照）に計数を開始した 2002 年 6 月 1 日からのデータを掲載。

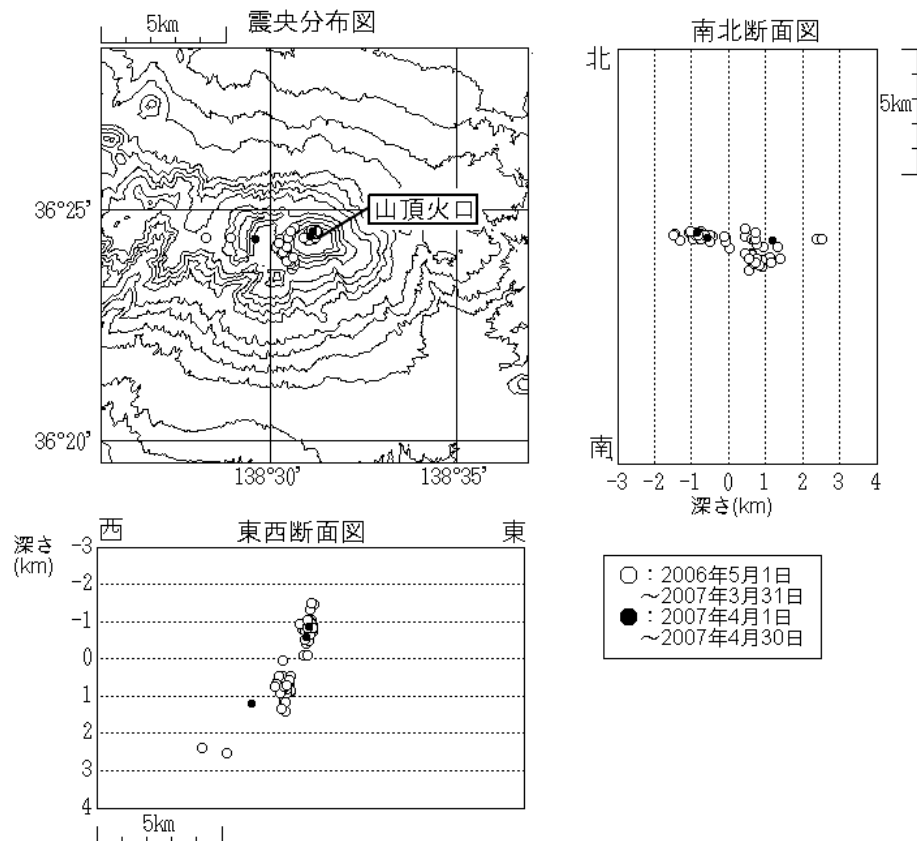


図 4※ 浅間山 火山性地震の震源分布（2006 年 5 月 1 日～2007 年 4 月 30 日）

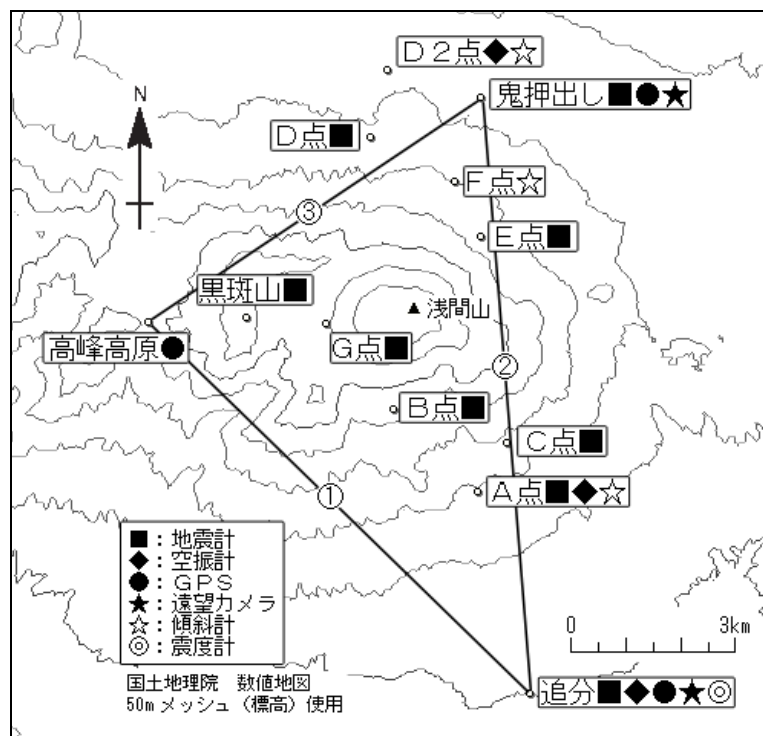


図 5 浅間山 気象庁の観測点配置図（小さな白丸は観測点位置を示しています）
GPS 基線③は図 3 の⑨に対応しています。

表 1※ 浅間山 2007 年 4 月の火山活動状況

	噴火回数	火山性地震の回数 3)						微動回数	噴煙の状況 4)		火映強度 5)	備考
		A型	BH型	BL型	Ex型	その他	地震合計		噴煙高度(m)	噴煙量		
1日	0	0	3	6	0	0	9	0	100	1	-	
2日	0	0	2	7	0	0	9	0	X	X	X	
3日	0	0	5	9	0	0	14	0	100	1	-	
4日	0	0	4	9	0	0	13	0	100	X	X	
5日	0	0	3	17	0	0	20	0	100	1	-	
6日	0	0	7	8	0	0	15	0	X	X	-	
7日	0	0	1	17	0	0	18	0	200	1	X	
8日	0	1	0	22	0	0	23	0	100	1	-	
9日	0	0	0	12	0	0	12	0	100	X	-	
10日	0	0	6	16	0	0	22	0	100	1	-	
11日	0	0	2	19	0	0	21	1	100	1	-	
12日	0	0	10	12	0	0	22	1	100	1	X	
13日	0	0	5	11	0	0	16	1	100	X	-	
14日	0	0	3	9	0	0	12	0	100	1	-	
15日	0	0	0	13	0	0	13	0	200	1	-	
16日	0	0	5	11	0	0	16	0	X	X	X	
17日	0	0	1	16	0	0	17	0	X	X	-	
18日	0	0	1	15	0	0	16	0	X	X	-	
19日	0	0	3	10	0	0	13	0	X	X	-	
20日	0	0	5	9	0	0	14	0	X	X	X	SO2放出量:50-100t/日
21日	0	0	1	19	0	0	20	0	X	X	X	
22日	0	0	6	15	0	0	21	0	X	X	-	
23日	0	0	11	9	0	0	20	0	100	1	-	
24日	0	0	3	13	0	0	16	0	X	X	X	
25日	0	0	10	9	0	0	19	0	X	X	-	
26日	0	0	4	6	0	0	10	0	100	1	-	SO2放出量:100-200t/日
27日	0	0	1	6	0	0	7	0	100	1	-	
28日	0	0	3	10	0	0	13	0	X	X	-	
29日	0	0	7	11	0	0	18	0	100	X	-	
30日	0	0	5	11	0	0	16	0	300	2	-	
合計	0	1	117	357	0	0	475	3				

- 3) 火山性地震の計数基準はB点で最大振幅 $0.1 \mu m$ 以上、S-P時間3秒以内です。
火山性地震の種類は以下のとおりです。

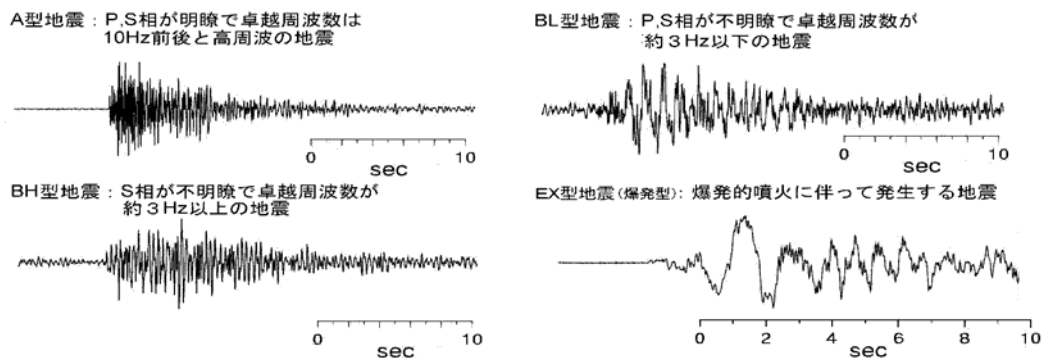


図6 浅間山 主に発生している火山性地震の特徴と波形例

- 4) 噴煙高度と噴煙量は定時観測（09時・15時）の日最大値です。噴煙量は以下の7階級で観測しています。

1：極めて少量 2：少量 3：中量 4：やや多量 5：多量 6：極めて多量
7：噴煙量6以上の大噴火。噴煙が山体を覆うぐらい多く、噴煙の高さは成層圏まで達したとみられる

- 5) 火映の強度は以下の4段階で観測しています。

0：肉眼では確認できず、高感度カメラのみ確認できる程度 1：肉眼でようやく認められる程度
2：肉眼で明らかに認められる程度 3：肉眼で非常に明るい色で異常に感じる程度
－：火映なし ×：視程不良（終日観測できなかった場合）